箱崎48

－箱崎遺跡第69次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1271集

SP197 出土人形滑石製品

2015

福岡市教育委員会

序

海に開かれたアジアの交流拠点都市づくりを目指す福岡市は、大陸文化の受入口として古来より繁栄して来ました。市内には貴重な文化遺産が数多く残されています。それらを保護し、後世に伝えることは私たちの義務であります。

箱崎地区は筥崎宮の門前町として、古くから栄えてきた地域ですが、近年、箱崎地区では再開発事業や民間の開発事業などによって、古い町並みが急速に失われてきています。本市教育委員会では、それらの開発については、事前に発掘調査を実施し、記録保存によって後世に伝えるよう努めています。

本書は、民間の共同住宅に先立って、平成25年度に実施した箱崎遺跡第69次調査の成果を報告するものです。調査では中世の館跡と思われる堀の跡などを検出しました。多数の遺構からは日常生活に使われた土器類や中国産輸入磁器などが出土し、箱崎地区の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

本書が、市民の皆様の文化財保護に対するご理解の一助となるとともに、学術研究、文化財保護の普及啓発活動に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、事業者の株式会社福博コーポレーション様をはじめとし関係各位のご協力に対して、厚く感謝の意を表します。

平成 27 年 3 月 25 日

福岡市教育委員会
教育長　酒 井　　龍 彦

凡　例

(1) 本書は、福岡市教育委員会が平成25年(2013)度に福岡市東区馬出5丁目104番地で実施した発掘調査の報告書である。
(2) 発掘調査は上記の主体により行われ、調査の担当は山崎龍雄・久住猛雄が行い、佐々木蘭貞の協力を受けた。
(3) 遺構実測は山崎龍雄・久住猛雄・佐々木蘭貞・穂園さやか(福岡大学学生)、遺物実測は山崎・久住が行った。出土遺物の整理・収蔵作業については田中由紀が行った。
(4) 本書に使用した図面の浄書は山崎・久住が行った。
(5) 調査で出土した中世輸入陶磁器の分類については太宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－(2000年太宰府教育委員会)を参考にした。
(6) 遺構の撮影は山崎・久住、遺物の撮影は本市埋蔵文化財センターの力武卓司が行った。
(7) 本書に使用した方位は磁北であり、真北とは6°18′西偏する。
(8) 出土金属製品の錆落とし等については埋蔵文化財センター上角智希氏が行った。
(9) 土層・遺物の色調の記録については新版標準土色帖を使用した。
(10) 調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。
(11) 本書の執筆・編集は久住の協力を受けて山崎が行った。

箱崎69次基本調査情報

遺跡略号	調査番号	調査地番	申請面積	調査面積	調査原因	調査期間	調査担当
HKZ-69	1316	福岡市東区馬出5丁目104番	195.81㎡	170㎡	共同住宅建設	2013.7.16 ～9.30	山崎龍雄 久住猛雄

本文目次

Ⅰ　はじめに ……2
　1 調査に至る経緯 ……2
　2 調査の組織 ……2
Ⅱ　遺跡の立地と歴史的環境 ……3
Ⅲ　調査の記録 ……4
　1 調査の概要 ……4
　2 遺構と遺物 ……4
　3 まとめ ……24
　4 各遺構古墳時代以前出土遺物 ……25

挿図目次

Fig.1　箱崎遺跡第69次調査地点位置図（1/4,000） ……2
Fig.2　箱崎遺跡と周辺の遺跡（1/50,000） ……3
Fig.3　第1面・第2面遺構全体図（1/100 ……5
Fig.4　SD05（1/80） ……6
Fig.5　SD05・210・223 出土遺物（1/4） ……7
Fig.6　SD05・223・227・284・318 出土遺物（1/3・1/4） ……8
Fig.7　SE196・230、SK228・229（1/60） ……9
Fig.8　SE196・230 出土遺物（1/3・1/4） ……10
Fig.9　各土坑（1/40） ……12
Fig.10　各土坑出土遺物Ⅰ(1/4) ……13
Fig.11　各土坑出土遺物Ⅱ(1/4・1/3) ……14
Fig.12　各土坑出土遺物Ⅲ(1/4・1/3) ……15
Fig.13　各土坑出土遺物Ⅳ・SK208（1/4・1/3・1/60） ……16
Fig.14　SX 遺構出土遺物 (1/4・1/3・1/2) ……17
Fig.15　ピット出土遺物Ⅰ(1/4) ……19
Fig.16　ピット出土遺物Ⅱ(1/3) ……20
Fig.17　包含層・遺構面・表採出土遺物 (1/3・1/4) ……21
Fig.18　各遺構出土石製品・鉄製品 (1/3) ……23
Fig.19　箱崎69次弥生土器、古式土師器、陶質土器 (1/3) ……25

写真目次

PL.1 (1) 調査区から筥崎宮を臨む（南西から）(2) Ⅰ区第1面全景（東から） ……26
PL.2 (1) Ⅰ区第2面全景（東から）(2) Ⅱ区第1面全景（東から） ……27
PL.3 (1) Ⅱ区第2面全景（東から）(2)SD05 西壁土層（東から）(3)SD05 ベルト土層（東から）
(4)SE196(南から)(5)SE230（北から） ……28
PL.4 (1)SK14（南から）(2)SK15（南から）(3)SK15 遺物出土状況（南から）(4)SK20・SP133（東から）(5)SK113（東から）(6)SK143（南から）(7)SK146（南から）(8)SK218（西から） ……29
PL.5 (1)SK222（西から）(2)SK26-1・2（東から）(3)SK228（東から）(4)SK229（西から）
(5)SK303（南から）(6)SK314（西から）(7)SX322 遺物出土状況（東から）(8)SP197 遺物出土状況（東から） ……30
PL.6 各遺構出土遺物 ……31

Ⅰ　はじめに

1．調査に至る経緯

福岡市教育委員会は同市東区馬出5丁目104番に共同住宅建設の為の埋蔵文化財の有無についての照会を平成24(2012)年6月29日付けで受理した。これを受けて申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地の箱崎遺跡に含まれていること、試掘調査が実施され現地表下140cmで遺構を確認し、遺構の保全などについて申請者と協議を行った。その結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、建物建設部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。その後、平成25年7月1日付けで株式会社福博コーポレーションを委託者として埋蔵文化財調査業務委託契約を締結し、同年7月16日から発掘調査を、翌平成26年度に資料整理および報告書作成を行うこととなった。

2．調査の組織

調査委託　株式会社福博コーポレーション

調査主体　福岡市教育委員会(発掘調査:平成25年度、資料整理・報告書作成:平成26年度)

調査総括　文化財部埋蔵文化財調査課長　宮井善朗(25年度)　常松幹雄(26年度)
同課調査第1係長　常松幹雄(25年度)　吉武　学(26年度)

庶　務　埋蔵文化財審査課　管理係長　和田安之(25年度)　内山広司(26年度)
管理係　横田　忍(25･26年度)

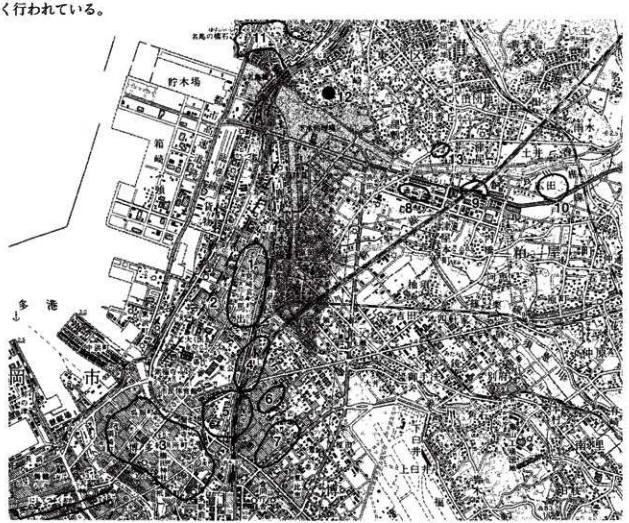
事前審査　25年度　埋蔵文化財審査課事前審査係長　加藤良彦　主任文化財主事　佐藤一郎
係員　森本幹彦
26年度 同課事前審査係長　佐藤一郎　主任文化財主事　池田祐司　係員　板倉有大

調査･整理担当　埋蔵文化財調査課文化財主事　山崎龍雄　久住猛雄

Fig.1 箱崎遺跡第69次調査地点位置図 (1/4,000))

II 遺跡の立地と歴史的環境(Fig.2)

箱崎遺跡は博多湾沿いに連なる古砂丘上に立地する、弥生時代終末から近世に至る複合遺跡である。箱崎遺跡のある箱崎地区は、延長元年(923)飯塚市筑穂にあった大分宮から遷座創建された筥崎八幡宮を中心に発達した門前町であり、中世は博多と同じように対外交易の拠点として栄えた。遺跡周辺の弥生時代から古代にかけての遺跡としては、箱崎から南に続く古砂丘上に博多遺跡群や吉塚遺跡、堅粕遺跡があり、多々良川を遡った内陸低地部には古代の官衙的大型建物群が出土した多々良込田遺跡などがある。多々良川対岸の名島地区には、古墳前期の前方後円墳の名島古墳があった。中世になると多々良川流域には戸原麦尾遺跡や多々良遺跡、大友氏に縁のある顕孝寺跡などがある。また筥崎宮一帯は文永の役以降、元軍の再襲来を防ぐための元寇防塁が海岸砂丘線上に薩摩国によって築かれる。建武2年(1335)に、南北朝時代の始まりとなった足利尊氏・少弐氏と菊池氏が戦った多々良浜合戦もこの周辺で行われた。戦国時代には多々良川対岸の名島に、立花城の出城として名島城が築かれた。名島城は豊臣秀吉の九州平定後、筑前国の国主となった小早川氏の本城として近世城郭に改修され、慶長5年(1600))の関ヶ原合戦の軍功によって黒田氏が筑前国主となり、福岡城を築城し移るまで継続している。箱崎遺跡の調査は地下鉄2号線の建設に伴って始まり、その後箱崎地区の再開発に伴って調査が多く行われている。



1．箱崎遺跡　2．元寇防塁　3．博多遺跡群　4．吉塚本町遺跡　5．堅粕遺跡
6．吉塚祝町遺跡　7．吉塚遺跡　8．多々良遺跡　9．多々良込田遺跡　10．戸原麦尾遺跡
11．名島城跡　12．名島古墳（消滅）　13．顕孝寺跡　※スミアミは中世内湾海岸線

Fig.2 箱崎遺跡と周辺の遺跡（1/50,000）

Ⅲ 調査の記録

1．調査の概要 (Fig.1・3、PL.1・2)

本調査区は箱崎遺跡の南部、筥崎宮より200m南に位置する。砂丘上に立地し、標高は現地表で約4mを測る。調査区北側の市道は箱崎・東浜線の調査として、東側は筥崎地区区画整理事業で調査が行われ、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が多く出土している。調査は工事用の土留め杭打ち後、試掘で遺構を検出した深さ140cmまで事業者側が表土撹取り、廃土の持ち出しを行い、その後、調査区を南北2分割（Ⅰ・Ⅱ区）し行った。調査はⅠ区から行った。基本層序は試掘データで地表下－80cmまでアスファルト・砕石・黒褐色土（表土）、その下－140cm迄は暗茶褐色砂、遺構面（第1面・20cm厚包含層）、－160cmで黄褐色砂（第2面）の地山面となる。遺構面は2面、第1面は中世前半、2面は古代末～中世前半でそれほど時期差がなく通して報告する。主な検出遺構は、区画溝1基、井戸2基、土壙墓2基、小溝、土坑、ピット群など。出土遺物の時期は弥生時代後期～中世後期迄である。遺物は出来るだけ図化し掲載に努めたが、紙面の関係で記述は一部割愛している。1/2片以下の破片の法量は復元数値である。

2．遺構と遺物

① 溝状遺構 (SD)

SD05 (Fig.4～6、PL.3-1～3) 第1面中央部で検出した東西から南北に曲がる溝で、東西主軸をN-70°-Wに取る。検出規模は東西10.5m、南北7m、溝幅は最大2m、深さは最大1.25m。溝断面は薬研堀状を呈す。埋土は黒褐色砂質土が主体で下層は地山砂を含む。中央部ベルト埋土の状態から掘り直しが確認出来る。遺物から見て中世後期に埋没したものと思われる。

出土遺物は古墳時代から中世の土師器、瓦質土器、中国産陶磁器、朝鮮陶磁器、瓦、石製品などが出土。**1～25**は1区出土。**1～15**は上層。**1～7**は土師器小皿片で口径8.8～9.3cm、器高0.9～1.4cm。外底部糸切り。**8**は瓦器椀1/4片。体部調整はヘラミガキかナデ、外面ハケ目が残る。**9**は瓦質土器火桶か火鉢口縁部小片。表面は黒ずみ丁寧なナデ。口縁部外面二条の突帯と六角文スタンプ、内面7本位の櫛目。**10～12**は白磁片。**10・11**は底部片。高台部は露胎。**12**は小杯。復元口径6.5cm、全面施釉だが内面蛇の目釉剥ぎ。**13・14**は青磁。**13**は外面の櫛描文から同安窯系青磁碗底部か。**14**は龍泉窯系皿Ⅰ-2C類。**15**は朝鮮王朝の雑釉陶器碗底部片。高台外面砂目痕残る。**16**は平瓦片。凹面粗い布目痕、凸面粗い格子目叩き痕がある。**17～21**は中層。**17**は土師器小皿1/2片弱。口径9.2cm。外底部糸切り。**18・19**は土師器鍋口縁部。内面ヨコハケ目、外面煤付着する。15世紀以降のものか。**20**は瓦質土器火鉢か火桶の口縁部片。口縁部内面強いヨコハケ目。**21**は白磁皿1/12片。口縁端部かすかに玉縁状を呈す。**22・23**は土師器。**22**は小皿1/4片。口径8.4cm。外底部板目が残る。**23**は坏か椀の口縁部1/7片。口径14.2cm。**24**は椀底部1/2弱。外底部ヘラ切り。**25**は白磁壺頸部片。**26～37**は2区出土。**26～29**は上層。**26**は土師器鍋口縁部細片。**27**は同安窯系青磁皿Ⅲ-1b類底部片。見込みヘラ切り文と櫛描き文。外底は露胎。**28**は白磁合子蓋1/6片。内面は露胎。**29**は押圧文軒丸瓦片。**30～37**は中層。**30～32**は土師器。**30・31**は小皿で3/4片・1/6片。**30**は外底部回転糸切りで板目。**31**はヘラ切り。**32**は丸底の坏か。**32**は体部丁寧なミガキ。**33・34**は瓦器。**33**は口縁部で内外面ミガキ。**34**は椀底部1/2片。**35**は土師質の鍋（足鍋？）口縁部片。外面使用で黒ずむ。**36**は陶器鉢口縁片。**37**は下層。土師器鍋口縁部1/8片。口径32cm。内外面ハケ目。外面ススが付着。**38～45**は3区出土。**38～42**は上層。**38～40**は土師器。**38**は小皿。1/4片で口径9.4cm。外底部糸切りで板目。**39**は坏1/6片。口径13.2cm。**40**は高台が付く盤か。1/6片で口径26cm。粘土紐痕が残る。**41・42**は瓦器椀。**41**は口縁部1/4片弱。口径14.4cm。内面ヘラミガキ、外面丁寧なナデ。**42**は底部1/3

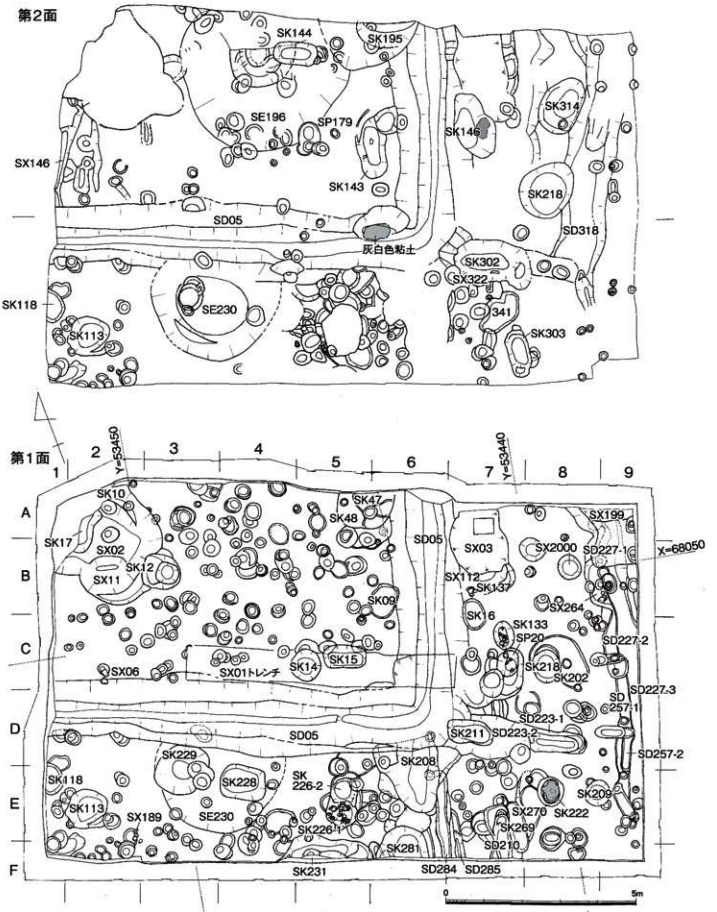


Fig.3 第1面・第2面遺構全体図 (1/100)

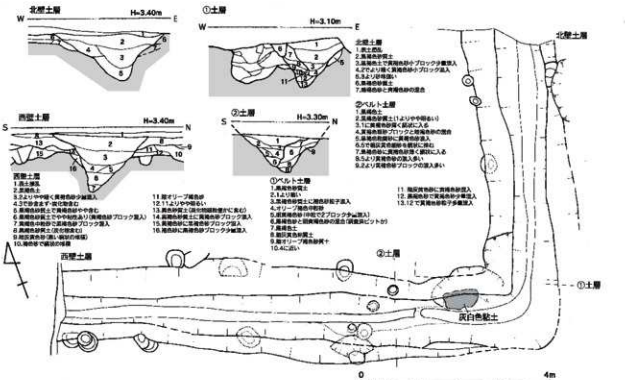


Fig.4 SD05 (1/80)

片。内面丁寧なミガキ。**43～45**は中～下層。**43**・**44**は土師器。**43**は小皿1/3片。口径10cm。外底部ヘラ切り板目。**44**は鍋口縁部1/10片。口径28.4cm。内面細かいヨコハケ目。外面スス付着。**45**は白磁水注注口部。**46**はベルト出土の土師器小皿1/3片。口径10cm。外底部ヘラ切り。**67**～**69**は瓦玉。**67**は青磁碗底部片利用。径8.4×8.9cm。見込みは輪状の釉掻き取りで、重ね焼き痕跡の粘土塊などが残る。**68**・**69**は瓦質の平瓦片利用。いずれも側面は粗割成形。**68**は5.3×5.6cm。**69**は径4.2cm。**70**～**78**は遊戯具の賽子のようなもの。径2～3cm位で、側面は粗割成形する。**70**・**72**・**73**・**75**～**78**は瓦片、**71**・**74**は土器片。

S1～**3**・**23**は1区、**S4**・**S29**は土層ベルト、**S22**は2区出土。**S1**は滑石製品の破片で硯か。3.3×2.6cm。**S2**は上層出土。全面を扁円形に擦られた円板。**S3**・**S4**は砥石。**S3**は下層出土。手持ち砥石片。9.2×4.0cm。使用により表面一部剥落。石材は粘板岩。**S4**は砂岩製砥石片。9.4cm×8.9cm。上面が砥石として使用され窪む。**S22**は白碧石で石材は石英か。長径1.9cm。**S23**は円盤状石製品。**S30**は黒碧石か。石材は粘板岩。**S31**は全面擦られた暗赤褐色の丸石。鉄製品**M1**は3区出土角釘。他に1点あり。

SD210(Fig.5) 1面南東側で検出した小溝。長さ1.3m、幅0.4m、深さ0.3mを測る。埋土は黒色砂質土で下層黄褐色砂ブロック混入。遺構から古代～中世の土師器・須恵器・黒色土器などが出土。**47**・**48**は土師器。**47**・**48**椀底部片。**47**は小片。**48**は1/4片。底径7.5cm。**48**の内面は丁寧な平滑なナデ。

SD223(Fig.5) **SD005**の東側で検出した小溝。西側は**SK211**、東側の底は土坑状に落込み、複数遺構の重複の可能性もあるが、溝として報告する。東側を1区、西側を2区とする。埋土は上層が黒褐色土、下層が灰黄褐色と鈍い黄橙色粗砂の混合、下層は黒褐色砂に薄く灰黄色細砂を挟む。遺構から古代～中世の土師器・須恵器・黒色土器・中国産白磁・瓦などが出土。**49**は上層。**49**は土師器椀1/5片。口径15.0cm。内面丁寧なヘラミガキ。外面丁寧なナデ。**50**は中世須恵器鉢口縁部片。**51**は瓦質土器火舎の脚部。**52**は白磁碗Ⅷ類1/8片で口径16.0cm。**53**は龍泉窯系青磁碗片。見込みには区画されたスタンプ文様が入る。高台内輪状の釉掻き取り。**79**・**80**は瓦玉。**79**は天目碗底部片利用。3.8×4.9cm。側面は打欠き整

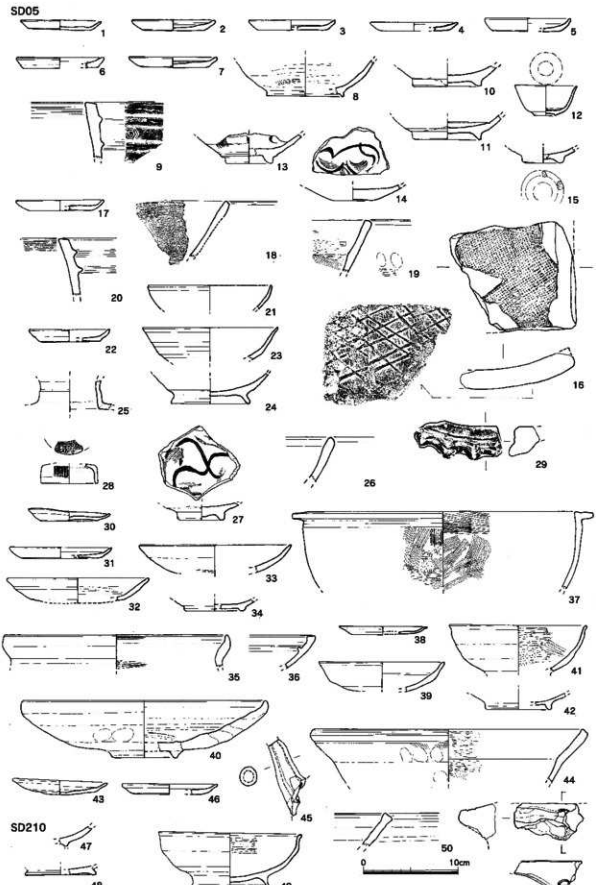


Fig.5 SD05・210・223 出土遺物 (1/4)

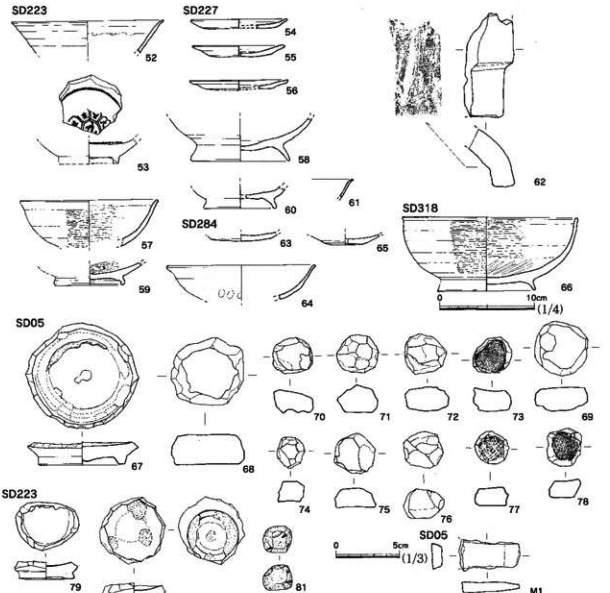


Fig.6 SD05・223・227・284・318 出土遺物 (1/3・1/4)

形。**80**は朝鮮王朝の雑釉陶器底部片利用。径5.2cm。内外面砂目痕が残る。**81**は土弾。径2.1×2.2cm、瓦らしき破片を粗割りし擦る。**S24**は黒碧石か。**M2**は角釘片か。頭部が曲がる。

SD227 (Fig.6) 調査区1面東側で検出した南北方向の小溝。北側は攪乱を受け、また他遺構との切り合いを受ける。埋土は黒褐色砂質土が主体。遺構から古代から中世の土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・越州窯系青磁などが出土。**54**～**60**は土師器。**54**～**56**は小皿。1/6片・1/3片・1/6片で、口径は10.3cm・9.8cm・10.4cm。外底部回転ヘラ切り。**57**～**60**は椀。**57**は口縁部1/6片。口径14.4cm。体部内外面ヨコヘラミガキ。**58**～**60**は椀底部。**58**は高台部1/4残る。高台径10.4cm。調整は回転ナデ。**59**は底部4片で、高台径7.4cm。**60**は1/3片で高台径7.6cm。高台内ヘラ切りで板目。**61**は青磁碗口縁部小片。**62**は丸瓦玉縁片。外面粗い格子目叩き

SD284 (Fig.6) 第1面南側中央で検出した小溝。北側はSK208に切られる。幅0.25m、深さ0.1～0.2mを測る。遺構から古代～中世の土師器・黒色土器・白磁・平瓦などが出土。**63**・**64**は土師器。**63**は小

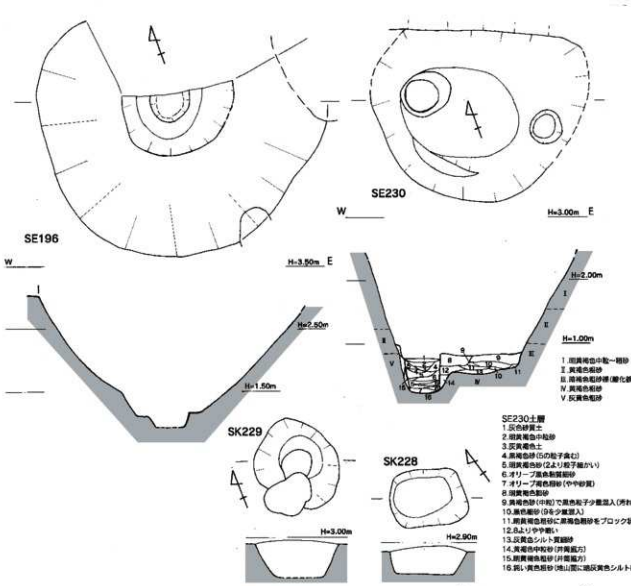


Fig.7 SE196・230、SK228・229 (1/60)

皿底部3/4片。摩滅するが外底部ヘラ切りか。**64**は丸底坏の口縁部1/6片。口径15.6cm。体部は丁寧な平滑なミガキかナデ。**65**は白磁皿VI-1b類底部1/2片。底径3.2cm。

SD318 (Fig.6、PL.6) 第2面東側で検出した溝。幅1.3m程、深さ0.2～0.3mを測る。埋土は褐色細砂。遺構から古代の土師器・黒色土器や瓦などが出土。量は少ない。**66**は内黒の黒色土器A類。大型の椀か鉢。口縁・底部1/3欠。口径18.4cm、器高8.1cmを測る。体部内外面ヘラミガキ、高台部ヨコナデ。

② 井戸(SE)

SE196 (Fig.7・8、PL.3-4) Ⅰ区第2面で検出。平面不整円形を呈す素掘り井戸。境界にかかり安全上、完掘出来なかった。規模は上面で東西4.5m、深さは約2mを測る。埋土は黄褐色砂・暗褐色砂・黒褐色砂・汚れた黄褐色砂など。底面で径0.6mを測る円形の井筒痕跡を検出。埋土は黒青灰色粘土混じり粗砂である。時期は出土遺物から11～12世紀中頃である。遺構から古代～中世初めの土師器・須恵器・黒色土器・越州窯系青磁・瓦・滑石製石鍋・弥生土器などが出土。**82～87**は上層出土の土師器。**82～86**

は小皿。**82・83・85**は1/4片、**84・86**は1/2片。口径は10.0～11.0cm。体部調整は回転ナデ、外底部はヘラ切り。**87**は椀高台部。高台径7.6cm。体部丁寧なナデ、外底部ヘラ削り。**88～91**は中～下層でいずれも土師器。**88・89**は小皿。1/4片・1/6片。口径10.8cm。外底部ヘラ切り。**90・91**は椀高台部。1/3・1/4片で、高台径8.8cm・8.0cm。**92**は下層。土師器小皿1/4片。口径11.0cm。外底部丁寧なナデ。**93～96**は井筒内出土。**93**は1/6片。口径11.0cm、外底部ヘラ切り後ナデ。**94**は丸底坏1/4片。口径15.0cm。体部丁寧な平滑なナデで、外面指圧痕残る。**95**は椀高台部片。高台径6.4cm。**96**は平瓦片。凸面粗い布目、凸面は粗い格子口叩き。**117**は土製円板。黒色土器B類片利用。径は3.8cm。**118**は遊戯具。瓦質土器片転用側面は打欠いている。2.3×2.8cm。側面は打欠き仕上げる。**M3**は角釘片。

SE230 (Fig.6～8・18、PL.3-5)　II区第２面西側で検出。溝SD05に北側は切られる。上面は土坑SK228・229がある。平面楕円形を呈し、規模は上面で長軸長3.5m、短軸長3.1mを測る。素掘り井戸であるが、深さ1.7mで、西隅で円形の木質の井筒を検出した。埋土は汚れた明黄褐色砂で黒色土ブロック混入。井筒内は水気を帯びグライ化した灰色砂質土や明黄褐色砂、黒褐色土などで、底近くはオリーブ黒色

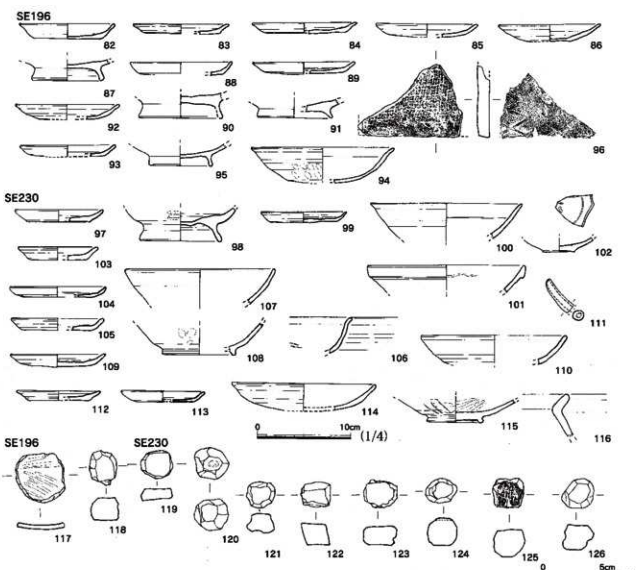


Fig.8 SE196・230出土遺物 (1/3・1/4)

黒色粘質細砂や明黄褐色砂で、底面は酸化鉄分で赤味を帯び、湧水がある。時期は出土遺物から12世紀中～後半頃である。遺構から古代から中世前期の土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・中国産陶磁器・滑石製品などが出土。**97・98**は上層出土の土師器。**97**は小皿1/4片。口径9.2cm。外底部回転糸切り。**98**は椀底部片。高台径8.7cm。高台部ヘラ切りで体部外面ヘラミガキ。**99～102**は中層。**99**は土師器小皿3/4片。口径9.0cm。外底部回転糸切り。**100・101**は白磁碗。**100**はⅧ-2類口縁1/8片。口径16cm。**101**はⅣ類口縁部1/8片。口径16.3cm。粗雑な造り。**102**は青白磁皿1/6片。青みのある灰白色釉で発色は良くない。**103～108**は下層。**103～106**は土師器。**103～105**は小皿。1/4片・1/3片・1/6片で口径8.4cm・10.0cm・9.9cm。いずれも外底部回転糸切り。**106**は椀口縁部小片。体部回転ナデ。**107・108**は瓦器椀。**107**は口縁部1/8片。口径18cm。体部丁寧なミガキかナデ。**108**は底部1/5片。体部内面平滑なミガキ、外面ナデ。**109**は掘方底出土。土師器小皿1/2片。口径10.0cm。外底部ヘラ切り後ナデ。**110**は井筒外出土。坏口縁部1/4片。口径15.4cm。**111**は白磁水注注口片。**112～116**は上層出土。**112・113**は土師器小皿1/4片。口径9.0cm・8.6cm。外底部ヘラ切りと糸切り。**114**は丸底坏1/6片。口径15.2cm。外底部ヘラ切りナデ。**115**は瓦器椀底部1/2片。高台径5.7cm。**116**は土器甕の口縁片か。**119・121～126**はメンコのような遊戯具。**121～126**は上層、**119**は下層出土。方形または不整円形に打欠き整形したもの。1辺が2cm～2.5cmの大きさ。**121**は土器片、**122**は瓦片、**123**は須恵器片、**124～126・119**は瓦片利用。**120**は井筒内出土。土弾で瓦を粗割して球形に仕上げる。径約2.5cm。**S5**は下層出土。方柱状の不明滑石製品。表面は研磨・擦り仕上げで、擦痕が残る。**S32・S33**は丸玉か。**S32**中層出土で石材は砂岩。**S33**は軽石。

③　土坑(SK)

SK09(Fig.10)　Ⅰ区第1面で検出した深さ約0.1ｍの不定形の浅い土坑。埋土は黒褐色砂質土。**127・128**は土師器小皿。**127**はほぼ完形、**128**は1/3片。口径9.5cm・10.6cm。外底部回転糸切り。**129**は白磁碗Ⅷ-2類底部1/2片。口径6.3cm。見込み蛇の目釉剥ぎ、高台部重ね焼き砂粒付着する。

SK12(Fig.10)　Ⅰ区第1面北西隅攪乱SX02に切られる円形土坑。時期は近世。**130**は土師器の高台付皿1/6片。口径12.4cm。**131**は肥前染付の角皿小片。18世紀頃のものか。

SK14(Fig.9・10、PL.4-1)　第1面中央部検出の0.76×0.86m、深さ0.6mを測る円形土坑。埋土は黒褐色を主体とする。**132～137**は土師器。**132～135**は小皿。**132**は1/3片、**133**は細片。**134**は2/3片、**135**は1/3片。口径、**132**は8.8cm、**134**は9.8cm、**135**は9.8cm。**136・137**は坏。いずれも1/5片で口径15.0cm・15.8cm。外底部は**132**がヘラ切りで、他は回転糸切り。**137**は口縁部黒く、灯明皿に転用か。**S6**はバレン状の滑石製品の破片。長さ3.9cm、幅4.7cm。石鍋の耳部片を利用し、その後は石錘として再利用している。摘部には円孔がある。

SK15(Fig.9・10・18、PL.4-2・3・6)　第1面中央部で検出した1.14×0.66m、深さ0.24mを測る長方形土坑。埋土は黒褐色土を主体とする。東側に副葬品と思われる鉄製品の小刀があり、土坑墓と思われる。時期は出土遺物から12世紀後半頃である。**138**は土師器小皿小片。**139**は坏1/5片で口径16.4cm。いずれも外底部糸切り。**M4**は小刀。2片に分かれる。推定長22cm以上、刃幅2.4cm。全体に錆がひどい。

SK16(Fig.10・18)　第1面でSD05を切る平面形が隅丸長方形を呈す土坑。規模は0.85×0.55m、深さ0.18mを測る。埋土は黒褐色土で炭化物粒子混入。**140・141**は土師器。**140**は小皿1/4片。口径8.6cm。**141**は坏1/6片。口径12.9cm。**140・141**の外底部回転糸切り。**142・143**は白磁。**142**は端反碗口縁部細片。**143**は玉縁口縁Ⅳ類碗1/6片。口径16.2cm。**144**は龍泉窯系碗Ⅰ類底部1/2片。高台径6.5cm。見込みに「金玉満堂」のスタンプあり。高台部露胎。**145**は褐釉陶器肩部片。**S24**はおはじきか。

SK48(Fig.10・11・18)　第1面北側で検出した浅い土坑。地山の落込みの可能性あり。中世の土師器・中国産陶磁器などが出土。**146・147**は土師器小皿。**146**は口縁部小片。**147**は1/5片。口径7.6cm。外底部回転糸切り。**148・149**は瓦器椀。**148**は1/4片。いずれも体部丁寧なミガキ。**219**は遊戯具。布目痕あり。**S26**は黒碧石か。

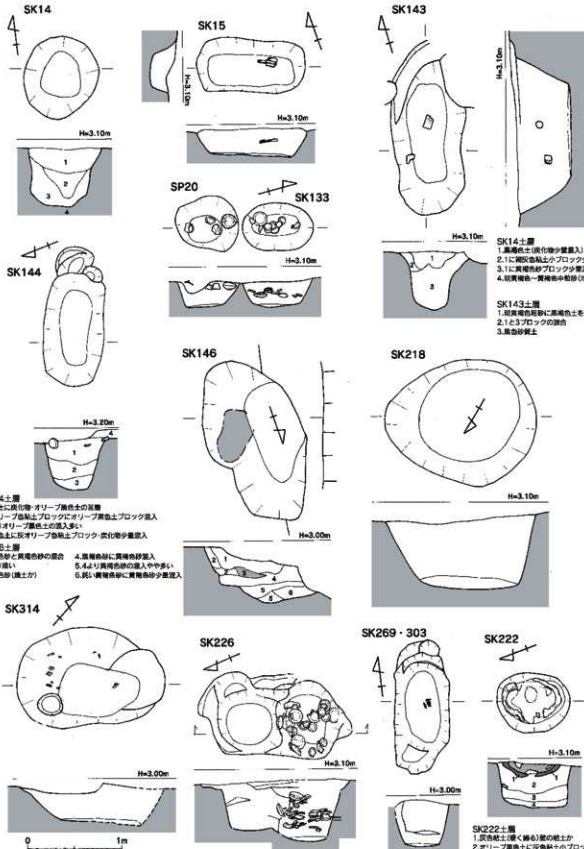

SK14
H=3.10m
SK15
H=3.10m
H=3.10m
SK143
H=3.10m
SK14土層
1.黒褐色土(炭化物少量混入)
2.1に褐灰色粘土小ブロック少量混入
3.1に黄褐色小ブロック少量混入
4.明黄褐色～黄褐色中粒砂(地山)
SK143土層
1.明黄褐色粘質砂に黒褐色土を薄く挟む
2.1と3ブロックの混合
3.黒色砂質土
SP20
SK133
H=3.10m
SK144
H=3.20m
SK144土層
1.灰色土に炭化物・オリーブ黒色土の互層
2.灰オリーブ色粘土ブロックにオリーブ黒色土ブロック混入
3.2よりオリーブ黒色土の混入多い
4.黒褐色土に灰オリーブ色粘土ブロック・炭化物少量混入
SK146
H=3.00m
SK146土層
1.黒褐色砂と黄褐色砂の混合
2.1より薄い
3.赤褐色砂(鏡土か)
4.黒褐色砂に黄褐色砂混入
5.4より黄褐色砂の混入やや多い
6.灰い黄褐色砂に黄褐色砂少量混入
SK218
H=3.10m
SK314
H=3.00m
SK226
H=3.10m
SK269・303
H=3.00m
SK222
H=3.10m
SK222土層
1.灰色粘土(硬く締る)窯の崩土か
2.オリーブ黒色土に灰色粘土小ブロック混入
3.黒色土(やや粘性あり)
4.3に明黄褐色粘土をブロック状に混入
5.明黄褐色間砂(地山)
0
1m

Fig.9 各土坑 (1/40)

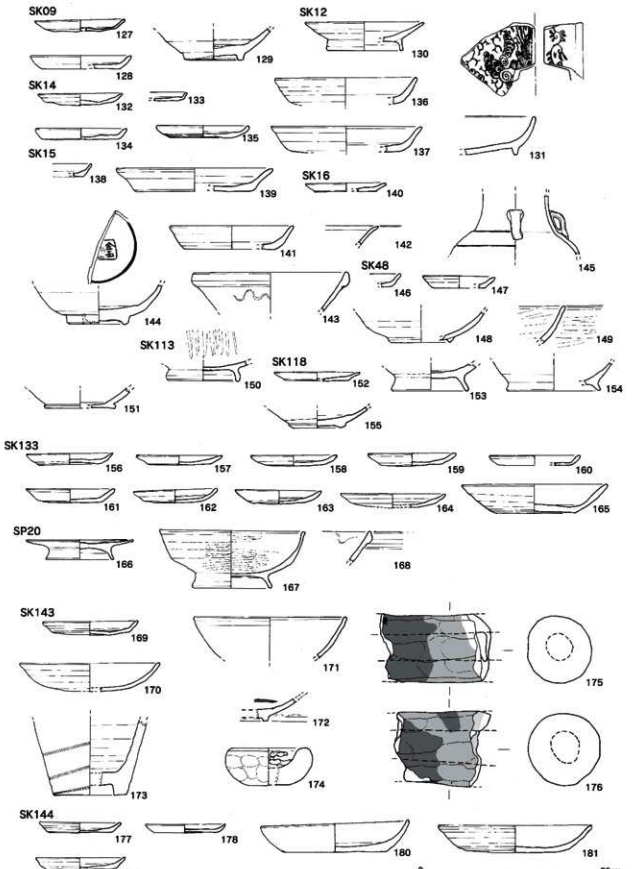


Fig.10 各土坑出土遺物Ⅰ(1/4)

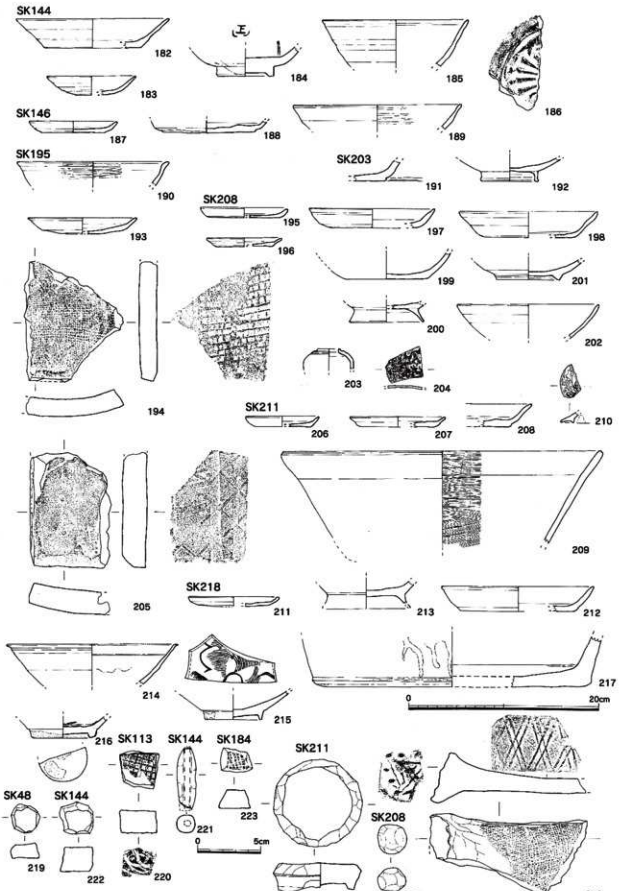


Fig.11 各土坑出土遺物II (1/4・1/3)

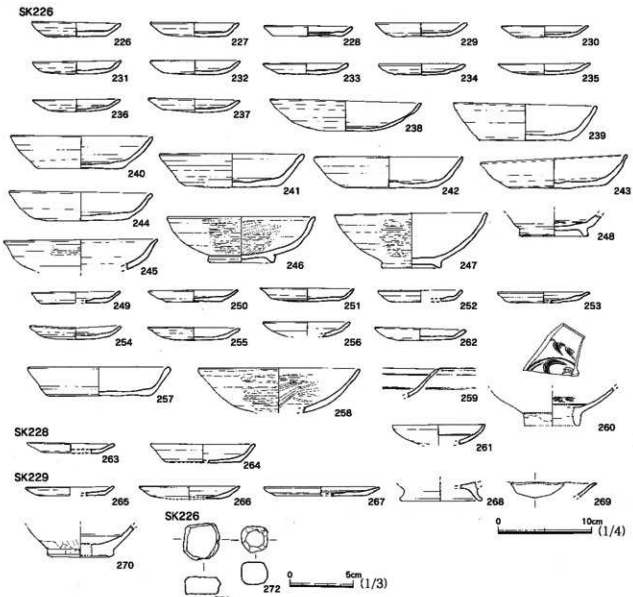


Fig.12 各土坑出土遺物Ⅲ(1/4・1/3)

SK113(Fig.10・11)　Ⅱ区第2面検出の隅丸方形の土坑。1.05×1.0m、深さ0.32m。**150**は土師器椀底部片。高台径7.5cm。内面ヘラミガキ。**151**は須恵器底部1/5片。底径7.2cm。調整はナデ。無釉陶器の可能性もある。**220**は3.2cm四方の瓦片利用の遊戯具。

SK118(Fig.10)　第Ⅰ面検出の西壁にかかる不整円形の土坑。長軸長0.8m。埋土は黄褐色と黒褐色砂の混合。西壁土層から複数遺構の重複の可能性あり。**152～154**は土師器。**152**は小皿1/3片。外底部回転糸切り。**153・154**は椀底部片。**153**は高台径7.5cm。**154**は1/3片で高台径10cm。**155**は白磁碗Ⅳ-1a類底部片。

SK133・SP20(Fig.9・10・18、Pl.4-4)　第1面東側で検出した楕円形の小土坑。連続して検出された。一つの遺構の可能性もあるので合わせて報告する。中世の土師器・黒色土器などが完形で出土し、廃棄土坑の可能性がある。時期は出土遺物から12世紀中頃である。**156～165**はSK133出土の土師器。**156～164**は小皿。**156～159・163**が完存、他は1/6～4/5片、口径は8.9～11.0cm。外底部はヘラ切り・糸切

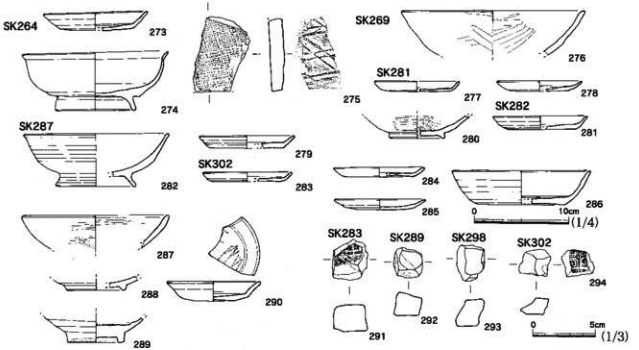
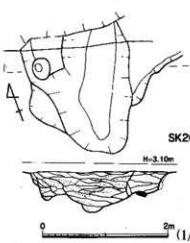


Fig.13 各土坑出土遺物Ⅳ・SK208 (1/4・1/3・1/60)



りが半々である。**165**は坏で完存。口径15.3cm。外底部回転糸切り。**166**は土師器の托1/5片。口径11.2cm。調整はナデ・回転ヨコナデ。**167**は両黒の黒色土器B類。完存で口径15.3cm。体部内外面ヘラミガキ。**168**は中国産の白磁碗Ⅳ類小片。**S17**は**SK133**出土。小型の皿のような滑石製品片。

SK143 (Fig.9・10、PL.4-6)　第2面で検出した長楕円形状の土坑。長軸長1.13m、幅0.73m、深さ0.63mを測る。埋土は上層に明黄褐色粗砂を含むが、黒色砂質土が主体。轆羽口が出土。時期は遺物から11世紀後半～12世紀初頃である。**169**・**170**は土師器。**169**は小皿1/3片。口径10.0cm。**170**は丸底坏1/3片。口径14.6cm。いずれも外底部ヘラ切りで、**169**は板目残り、**170**は後ナデ。**171**・**172**は白磁。**171**は碗口縁部1/7片でⅡ-3b類か。口径16.0cmを測る。**172**は浅碗Ⅵ-1b類底部小片。内面櫛描文残る。**173**は陶器壺底部。まだらに灰白色釉が内外面かかる。外面工具による3条の沈線。二次被熱か外面赤身を帯びる。**174**は坩堝片。2点出土。口径7.6cm。内面緑青色の銅付着物が付着。器壁は2cmと厚く、使用により黒化し橙色に変化している。**175**・**176**は轆羽口片。直径は7cm・8cmで、先端部は使用により赤黒く変化しガラス質が付着。**M5**は鉄板を丸く巻いた不明鉄製品。長さ3.1cm。

SK144 (Fig.9・10)　第2面北側検出の隅丸長方形の土坑。1.18×0.63m、深さ0.55m。埋土はオリーブ黒色土で灰や炭化物多く混入。時期は出土遺物から12世紀後半頃である。**177**～**182**は土師器。**177**～**179**は小皿。**177**・**178**は完存。**179**は2/3片。口径は8.4～9.3cm。**180**～**182**は坏。**180**は2/3片、**181**は破片、**182**は1/4片。口径は15.6cm・16.1cm・16.0cm。いずれも外底部回転糸切りで板目残る。**180**・**181**は口縁ススが付着し灯明皿に使用か。**183**は白磁小皿Ⅵ類か。1/10片で口径10cm。外底部露

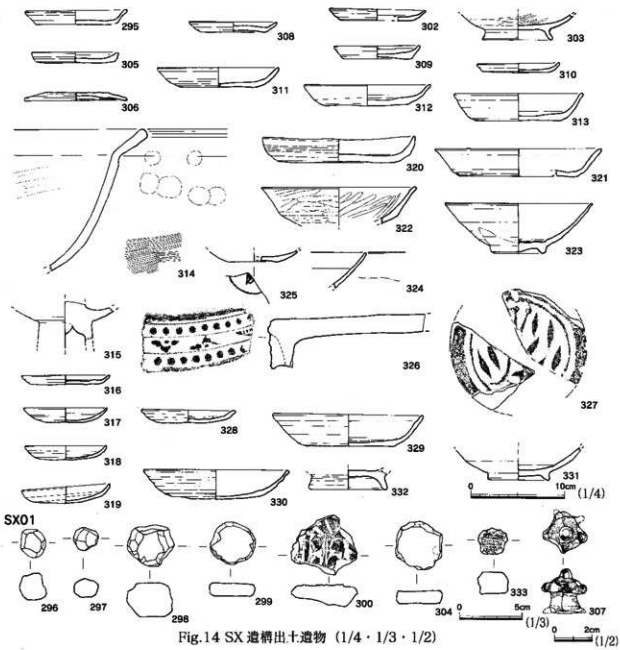


Fig.14 SX 遺構出土遺物 (1/4・1/3・1/2)

霧胎。**184**・**185**は龍泉窯系青磁。**184**は1/4片。見込み「王」字スタンプあり。**185**はⅠ-1b類1/6片。口径15.4cm。**186**は軒丸瓦瓦当片。**221**は管状土錘。長さ4.8cm。**222**は瓦片利用の遊戯具。2.6×2.5cm。表面は縄目と格子目。

SK146 (Fig.9・10、PL.6)　第2面SD05に切られる土坑。長軸長1.4m、深さ0.6mを測る。遺構は擂鉢状に深くなり、上部に土師器などの土器集中(SX112、Fig.14)があった。埋土は黒褐色砂が主体で、間に赤褐色砂(焼け砂)を含む。時期は出土遺物から12世紀中～後半頃である。**187**・**188**は土師器。口径9.0cm。**187**は小皿。口縁部1/5欠。口径9.2cm。**188**は坏底部4/5片。いずれも外底部回転糸切り。**187**はヘラ切り。**189**は黒色土器B類椀1/8片。口径17.6cm。体部調整はヨコヘラミガキ。**S8**は小型の石鍋1/4片。口径8.2cm。縦の耳が4か所付く。**S9**は長方形状の不明滑石製品片。削り・研磨・擦り仕上げ。**M6**は2片が錆で付着した鉄滓片。木質が残る。剣と刀片の付着か。

SK184 (Fig.11)　**223**は平瓦片利用の遊戯具。方形で2.5×1.9cm。布目と格子目叩き痕。

SK195 (Fig.11・18)　第2面北壁にかかる土坑で全体は不明。埋土は暗褐色砂。**190**は黒色土器B類椀

口縁部1/6片。口径15.8cm。体部はヨコヘラミガキ。**S28**は白葬石か。石材は石英。

SK203 (Fig.11) 第1面東側SD227を切る土坑。最大長0.9mでピットの重複の可能性がある。西側をSK203-1、東側をSK203-2とする。**191・192**は土師器。**191**は坏底部細片。**192**は椀底部1/4片。

SK207 (Fig.11) SK207としたが、どの遺構かは不注意で不明。参考に上げる。**193**は土師器小皿。外底部ヘラ切り。**194**は平瓦片。凹面布目痕、凸面格子目叩き痕残る。

SK208 (Fig.11～13・18、PL.4-8) 第1面SD05に切られる土坑。溝の可能性もある。最大幅2.5mを測る。深さ0.6mを測る。埋土は砂またはシルトなどを主体とする。時期出土遺物から12世紀前半頃である。**195～200**は土師器。**195・196**は小皿1/3片。口径9.2cm・8.0cm。外底部回転糸切り。**197～199**は坏。1/4片・1/3片・底部片。口径13.2cm・14.4cm。外底部ヘラ切り。**197**は口縁部一部黒化する。**200**は椀底部1/3片。**201**は瓦器椀底部1/3片。高台径6.6cm。**202**は白磁碗II-4a類口縁部1/8片。薄目の施釉。**203**は白磁小壺口縁部1/4片。**204**は青白磁小片。**205**は須恵質の平瓦片。凹面布目痕・凸面粗い格子目叩き。**224**は土弾。2.3×2.3×1.9cm。**S10**は卵球状の軽石製品。5.4×4.5cm、表面削り後擦り仕上げ。**S11**は敲石か石錘か。13.0×5.8cm。扁平な形状で上下表面は擦り、側面に抉りがある。石材は玄武岩か。

SK211 (Fig.11) 第1面SD223上面検出の土坑。埋土は暗褐色土。時期は出土遺物から15～16世紀頃である。**206～209**は土師器。**206・207**は小皿1/4。口径7.8cm・10.0cm。**208**は坏小片。外底部は糸切り。**209**は鍋1/10片。内面ハケ目、外面ススが付着。**210**は青白磁合子蓋小片。**225**は白磁碗底部利用の瓦玉。側面打欠き成形。

SK218 (Fig.11・18) 第1面で検出した円形土坑。径1.60×1.35m、深さ0.77mを測る。埋土は黒色土から黒褐色土。時期は出土遺物から12世紀中～後半頃である。**211～213**は土師器。**211**は小皿1/4片。口径9.4cm。外底部回転糸切り。**212**は坏1/8片。口径16.0cm。外底部はヘラ切りか。**213**は椀底部片。**214～216**は白磁椀。**214**は碗V-4類1/5片。口径17.8cm。両面施釉で内面沈圏線が巡る。**215**は底部1/2片。見込みヘラ切り・櫛描文でVII類に近いか。高台部露胎。**216**は底部1/2片。見込みと高台部重ね焼き痕がある。**217**は陶器大甕底部1/8片。外底部は露胎。磁灶窯系か。**218**は軒平瓦。瓦当が一部残る。凹面布目、凸面斜格子目叩き。**S12・13**は扁平な方形の滑石製品。2.3×4.0cmと3.4×4.0cm。削り後擦りで擦痕残る。

SK222 (Fig.9・18、PL.5-1) II区第1面検出土坑。上面に硬く締った白色粘土があった。出土遺物は少ない。

SK226 (Fig.9・12、PL.5-2・6) II区第1面で検出した土坑。規模は1.45×0.85m、深さ0.65mで、南側が一段深くなる。完形の坏・小皿などが南側で多く出土しており、別遺構の切り合いの可能性もあるが、同一として報告する。埋土は黒褐色土が主体。時期は出土遺物から12世紀前半～中頃である。**226～248**は南側の土器集中部出土。**226～246**は土師器。**226～237**は小皿。**226・227・229～232・234**が完存、他は1/4～4/5片。口径は9.0～9.6cm。**238～245**は坏。**240**は完存、**238・244**はほぼ完存、**239・243**は口縁1/6欠・1/3欠く、**241・242・245**は1/4片・1/6片・1/2片。口径14.9～16.2cm。小皿・坏とも外底部ヘラ切りで板目が残るものもある。**234・240・244**は口縁部が一部黒化し、灯火具として使用された可能性がある。**246**は椀で口縁1/8欠。口径15.6cm。体部ヨコヘラミガキ。高台内には板目残る。**247**は瓦器椀。口縁部1/3欠く。口径16.0cm。体部は丁寧なヘラミガキ。**248**は越州窯系青磁碗底部1/4片。高台径7.2cm。見込みと高台部重ね焼きの白色粘土残る。**249～261**は北側出土。**249～257**は土師器。**249～256**は小皿。**249・255**が底部一部欠、他は1/3～2/3片。口径8.9～9.6cm。**257**は坏底部で口縁部一部残る。外底部は**253・256**が回転糸切り以外、ヘラ切り、**255**は板目が残る。**251**は口縁部内外面黒化する。**258**は瓦器椀口縁部1/8片。口径17.0cm。体部内外面ヘラミガキ。**259～261**は白磁。**259**は口縁部小片。**260**は碗VII-b類底部1/6片。底径5.8cm。見込み櫛描文。**261**は皿VII-1a類か。1/8片で口径9.8cm。**262**はSK226出土で完存の土師器小皿。口径9.6cm。**271・272**は四辺打欠きの遊戯具。**271**は2.9cm四方で須恵器甕片、**272**は2cm四方で瓦質土器片利用。**S14**は敲石か磨石。上下両面

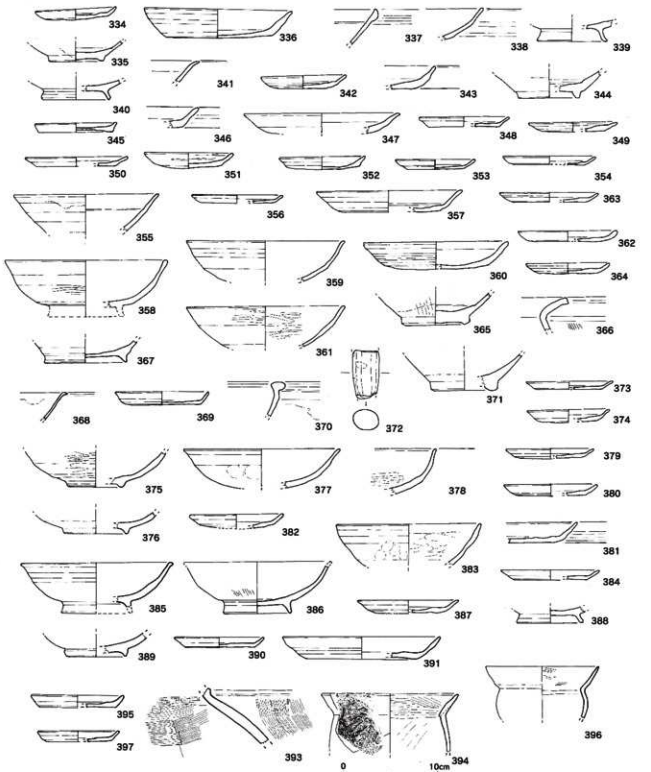


Fig.15 ピット出土遺物Ⅰ(1/4)

は擦りで擦痕、側面敲打痕残る。18.0×8.3cm。石材は泥岩か緑泥片岩か。**S27**は方形の石鍋片転用製品。遊戯具か。**M7**は曲がった不明鉄製品。

SK228(Fig.12)　第1面SE230上面で検出した土坑。1.22×0.85m、深さ0.46m。**263**・**264**は土師器小皿。1/6片・1/4片。口径9.2cm・11.0cm。外底部回転糸切りとヘラ切り。

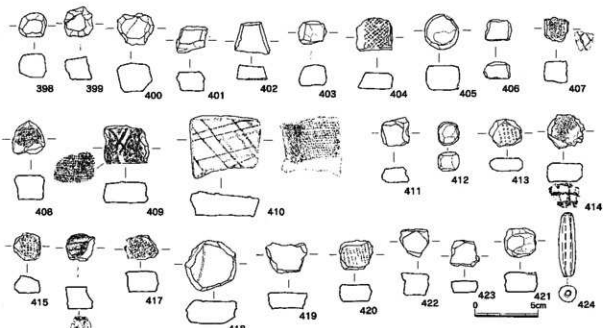


Fig.16 ピット出土遺物Ⅱ(1/3)

SK229(Fig.12)　第1面SE230上面で検出。不整円形の形状で井筒の名残の可能性もある。1.50×1.32m、深さ0.6m。埋土は黒色砂質土に炭化物・灰色細砂ブロック混入で、水平の縞状の黒いバンドが入る。**265～267**は土師器小皿・皿。1/6片・1/4片・1/4片で口径9.2cm・10.4cm・12.2cm。外底部は**265**が糸切り、**266・267**はヘラ切り。**268**は黒色土器B類底部1/4片。高台径8.6cm。やや摩滅するがヘラミガキ。**269**は輪花皿口縁片。越州窯系青磁皿Ⅱ類か。**270**は白磁碗Ⅳ-1b類底部1/3片。底径7.0cm。

SK264(Fig.13、PL.6)　第1面SD227に切られる浅い土坑。埋土は黒色砂質土。**273・274**は土師器。**273**は小皿。口径10.9cm。外底部ヘラ切り。**274**は椀で口縁部2/3欠。口径15.3cm。体部ナデかミガキ。**275**は平瓦小片。粗い布目と二重の格子目叩き残る。

SK269・303(Fig.13・18)　第1面で検出。第2面のSK303と同一。骨が出土しており、墓と思われる。1.24×0.56m、深さ0.50m。**276**は瓦器椀か鉢口縁部1/8片。口径19.2cm。体部ヘラミガキ。**S15**は滑石製品。容器の蓋の破片か。1.8×1.6cm。

SK281(Fig.13)　Ⅱ区第1面で南壁にかかる円形土坑。深さは0.3m程で、埋土は黒色土。**277～279**は土師器小皿。1/4～1/5片。**277・278**は口径9.0cm、**278**は10.0cm。外底部**277**はヘラ切り、**278・279**は糸切り。**280**は黒色土器A類椀底部1/3片。高台径5.8cm。体部ヘラミガキ。

SK282(Fig.13)　SK281に切られる北側の土坑。**281**は土師器小皿1/2。口径10.0cm。外底部糸切り。

SK287(Fig.13)　SK208西側下で検出の土坑。**282**は土師器椀1/6片。口径15.3cm。体部丁寧なナデ。

SK302(Fig.13)　Ⅱ区第2面、SD223-2区下で検出した隅丸長方形土坑。規模は2.1×1.1m、深さ0.7mを測る。**283～286**は土師器。**283～285**は小皿1/3片。口径9.4～9.6cm。外底部**283**は糸切りと板口、**285**はヘラ切り。**286**は坏1/4片。口径14.46cm。外底部ヘラ切り。**287・288**は瓦器椀1/8片と底部片。同一の可能性あり。**287**は粗いヨコヘラミガキ。**289**は白磁碗Ⅷ類底部。見込み・高台部重ね焼き痕残る。**290**は同安窯系皿Ⅳ1-2b類1/4片。口径9.8cm。**294**は遊戯具で土師器鍋か火鉢片利用。

SK314(Fig.9、PL.5-6)　Ⅰ区第2面検出の土坑。1.54×1.04m、深さ0.42m。炭化物が多量出土。

各土坑出土遺物(Fig.13)　いずれも遊戯具。**291**はSK283出土。**292**はSK289出土。**293**はSK298

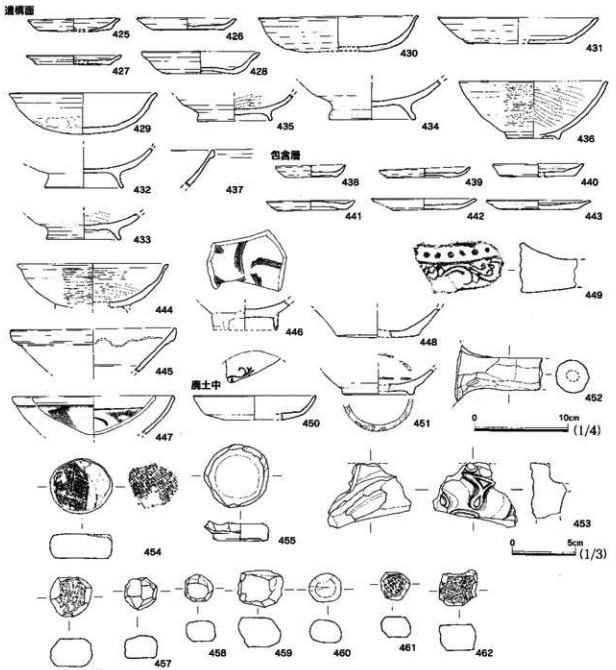


Fig.17 包含層・遺構面・表採出土遺物(1/3・1/4)

出土。**291・293**は平瓦片、**292**は土器片利用。いずれも方形に打欠きし、2～3㎝の大きさ。

④ ピット・その他の遺構(SP・SX) (Fig.14～16・18、PL.6)

295～300はSX01試掘トレンチ埋土出土。土師器小皿片。**295**は底部ヘラ切り板目。**296～299**は遊戯具。**296・297**は土弾。**298**は平瓦・**299**は陶器片利用。**300**は不明土製品。**301～304**はSX02攪乱出土。**302**は土師器小皿2/3片。外底部ヘラ切り板目。**303**は黒色土器B類底部3/4片。**304**は陶器片利用の遊戯具。**305～307**はSX11土器群出土。**305**は小皿1/2片。底部ヘラ切り板目あり。**306**は土師器蓋1/2片。天井部ヘラ切り。**307**は緑釉がかかった椀Ⅱを模した陶製品。**308～315**はSX112土器群。SK146上面で検出。**308～310**は土師器小皿片。**311～313**は土師器坏片。いずれも底部糸切り。**314**は鍋片。底部にススが付着。**315**は陶器の燭台の一部か。**316～319**はⅡ区第2面のSX189土器群。土師

器小皿。**316・319**は完存。**316**は底部糸切り、他はヘラ切り。**S16**は不明滑石製品片。中央に孔があく。9.6×6.3㎝。石錘か。**320～327**はSX200円形土坑（攪乱？）出土。**320・321**は土師器坏片。底部糸切り。**322**は瓦器椀片。体部ヘラミガキ。**323・324**は白磁碗Ⅷ-2類片。口縁部小片。**325**は白磁皿底部片。花押と見られる墨書あり。**326**は軒平瓦瓦当片。**327**は軒丸瓦瓦当。瓦当文様は花弁文。**328～330**はSX331出土の土師器。SX331はSK226南側土坑。**328**は小皿、**329・330**は坏。**328・329**は完存。底部ヘラ切り。板目あり。**331**は瓦器椀底部片。体部平滑なナデかミガキ。**332**は第２面検出の浅い不定形土坑出土。土師器椀底部片。**333**はSX370出土。須恵器片利用の遊戯具。

ピット出土遺物　334はSP13出土土師器小皿。外底部ヘラ切り・板目。**335**はSP18出土。白磁碗Ⅳ類底部。**336・337**はSP22出土。**336**は土師器坏完存品。口径15.5㎝。外底部糸切り・板目。**337**は白磁碗Ⅳ類口縁片。**338**はSP34出土。丸底杯口縁片。**339～341**はSP35出土。**339**は土師器椀底部1/6片。**340**は黒色土器A類底部1/6片。**341**は白磁碗Ⅸ-1類口縁部小片。**342**はSP36出土。土師器小皿口縁1/2部欠く。外底部ヘラ切り・板目。**343**はSP42出土。**344**はSP43出土。白磁碗底部片。**345**はSP46出土。土師器小皿でほぼ完存。外底部糸切り・板目。**346**はSP53出土。土師器皿小片。**347**はSP58出土。土師器皿1/4片。**348**はSP63出土。土師器小皿1/3片。外底部糸切り・板目。**S29**はSP68出土。黒碧石か。**349**はSP70出土。土師器小皿1/4片。**350**はSP71出土。土師器小皿片。外底部ヘラ切り。**351～354**はSP81出土。**351**は瓦器皿1/2片。粗いヘラミガキ。**352～354**は土師器小皿1/4～3/4片。**352・354**は外底部ヘラ切り、**353**は糸切り・板目。**355**はSP84出土。白磁碗Ⅷ-2類口縁片。**356・357**はSP85出土土師器。**356**は小皿1/4片。外底部糸切り。**357**は坏1/4片。外底部ヘラ切り。**358**はSP88出土。瓦器椀1/6片。体部丁寧なミガキ。**359**はSP92出土。瓦器椀1/3片。体部丁寧なナデ・ミガキ。**360・361**はSP96出土。**360**は土師器坏1/3片。外底部糸切り・板目。**361**は瓦器椀口縁部1/6片。体部雑なヘラミガキ。**362**はSP102出土土師器小皿1/4片。外底部ヘラ切り。**363・364**はSP109出土土師器。いずれも小皿1/4片。外底部糸切り、ヘラ切り・板目。**365**はSP119出土。白磁碗Ⅳ-1a類底部片。**366**はSP120出土。弥生土器甕口縁部小片か。**367**はSP126出土。古代土師器椀底部1/2片。**368**はSP130出土。白磁碗Ⅴ類小片。**369**はSP133出土。土師器小皿1/3片。外底部糸切り・板目。**370**はSP134出土。明褐色釉陶器盤小片。**371・372**はSP136出土。**371**は白磁碗Ⅳ類底部1/4片。**372**は土製支脚片。**373・374**はSP149出土土師器小皿片。外底部ヘラ切り。**375**はSP171出土瓦器椀底部1/4片。体部ヘラミガキ。**376**はSP180出土瓦器椀底部1/4片。体部丁寧なナデ。**377・378**はSP192出土。**377**は土師器坏片。**378**は椀小片。**379**はSP213土師器小皿1/4片。**380・381**はSP224出土。**380**は土師器小皿1/4片。外底部糸切り。**381**は土師器皿小片。**382・383**はSP224・225出土。**382**は土師器小皿1/4片。外底部ヘラ切り。**383**は瓦器椀1/6片。体部ミガキかナデ。**384**はSP239出土。土師器小皿1/6片。外底部ヘラ切り。**385・386**はSP248出土。**385・386**は土師器椀底部。**387**はSP258出土土師器小皿1/3片。外底部ヘラ切り・板目。**388**はSP274出土。土師器椀底部1/4片。**389**はSP282出土瓦器椀底部1/4片。体部丁寧なヘラミガキ。**390・391**はSP286出土土師器。**390**は小皿でほぼ完形。外底部糸切り。**391**は坏1/4片。外底部糸切り。**393**はSP310出土。弥生土器壺頸部片。内外面ハケ目。**394**はSP319出土古墳時代土師器甕。胴部外面線刻がある。**395**はSP321出土土師器小皿1/3片。外底部糸切り。**396**はSP324出土。古墳時代土師器の小型丸底壺1/4片。外面細かいミガキ。**397**はSP330出土土師器小皿1/4片。外底部糸切り。

398～423は瓦玉や賽子、メンコのような遊戯具か。一辺2～3㎝で土器片・陶磁器・瓦片を利用し、上下両面は器壁で、側面を粗削または擦って成形している。**398**はSP33出土。瓦片利用の瓦玉か。**399**はSP36出土。須恵質の瓦片利用。**400**はSP55出土。瓦片利用。**401**はSP57出土。須恵器片利用。**402**はSP71出土。**403**はSP86出土。瓦片利用。**404**はSP92出土。瓦片利用。**405**はSP96出土。瓦片利用で、各側面擦っている。**407**はSP124出土。瓦片利用。**408**はSP126出土。瓦片利用。**409**はSP136出土。瓦片利用。**410**はSP148出土。

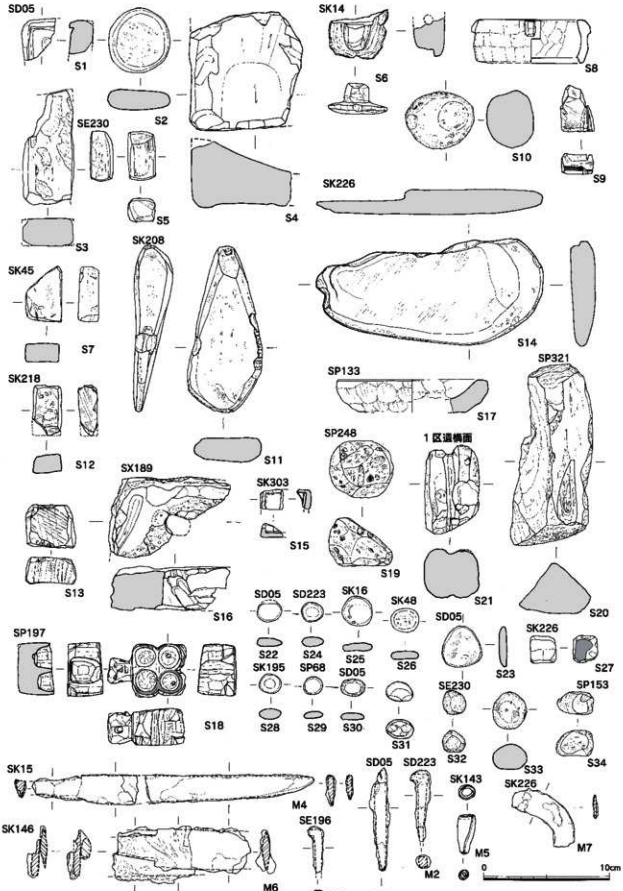


Fig.18 各遺構出土石製品・鉄製品(1/3)

瓦片利用。**411・412**はSP224出土。**411**は土器片利用。**412**は土器片利用で各面円く擦っている。**413**はSP224・225出土。木目直交叩きが残る土器片利用。**414**はSP234出土。平瓦片利用。**415**はSP238出土。須恵器片利用。**416**はSP248出土。土師質の瓦片利用。**417**はSP251出土。瓦片利用。**418**はSP256出土。平瓦片利用。**419・420**はSP258出土。**419**はススが付着した土器片利用。**420**は土師器片利用。**421**はSP279出土。瓦片利用。**422・423**はSP282出土。**422**は瓦片利用。**423**は土師器片利用。**424**はSP286出土。管状土錘。完存で全長5.0cm。

各柱穴出土石製品　**406**はSP115出土砂岩質の石製品か。**S18**はSP197出土の人形を模した滑石製容器。長さ6.1cm、幅4.2cm。摘みが頭部で、紐を通す孔が耳で、体部側面4か所手と足を削り出す。上面4か所円形の窪みを造り、その上辺は黒色物質が付着する。文具の墨壺のようなものか。**S19**はSP248出土不明軽石製品。**S20**はSP321出土砥石。**S34**はSP153滑石製石弾か。

⑤　包含層・遺構面・表採遺物(Fig.17・18、PL.6)

425～437は遺構面出土。**425～427**は土師器小皿片。1/3～2/3片。外底部ヘラ切り。**428～431**は坏。1/6～1/2片。**428・429**は外底部ヘラ切り。**431**は外底部糸切り。**432～434**は土師器椀底部。**432・433**は底部片。**434**は1/2片。調整はナデ。**435**は黒色土器A類椀2/3片。内面ヘラミガキ。**436**は瓦器椀1/3片。内外面斜めのヘラミガキ。**437**は白磁碗Ⅱ類小片。**S21**は Ⅰ区出土滑石製有溝石錘。一部欠ける。長さ8.0cm。**438～447**は包含層。**438～443**は土師器小皿。**441**は完存。外底部**438・439・441**が糸切り、その他はヘラ切り。**443**は蓋の可能性がある。**444**は黒色土器椀B類1/4片。体部内外面ヨコヘラミガキ。**445・446**は白磁碗。**445**はⅣ類口縁1/4片。**446**はV-4C類底部。内面櫛描文。**447**は同安窯系青磁碗Ⅰ-1b類口縁1/6片。**448**は弥生土器底部1/8片。**449**は第1面下包含層出土軒平瓦瓦当。**450～452**は廃土出土。**450**は白磁皿Ⅷ-2b類1/5片。**451**は越州窯青磁碗底部1/3片。内外面粘土目痕残る。**452**は土師質で焙烙把手か。**453**は遺構面出土の不明土製品の小片。黒褐色の須恵質で焔器に近い焼き。上面に装飾文様が型で打出され、下面は円形の脚が付く。硯のようなものか。**454～462**は遊戯具の瓦玉か賽子かおはじきか。**454**は試掘トレンチ埋土SX01出土。瓦片利用の瓦玉。**455**は天目碗底部片利用の瓦玉。**456～460**は遺構面。**456・457**は瓦片利用。**458**は遺構面(SD05 上面)。瓦片利用。**459**は瓦片利用。**460**は丸く擦られ土弾か。**461・462**は包含層出土。瓦片利用。**C1**はSK16出土の皇宋通宝。北宋1039年初鋳。**C2**はⅡ区第2面出土。唐朝の開元通宝。621年初鋳。

3　小結

紙面の都合上、十分な報告は出来なかった。最後に気づいたことを列挙してまとめとする。雑駁なまとめであることをお許し願いたい。

1．調査で検出した遺構の時期は遺物から見て古代末から中世前半に収まる。ただ、SD05のように、埋土の中に15～16世紀が含まれ、中世後期に埋没した遺構も存在するが数は少ない。中世後期から戦国期の生活域の中心から外れていたのであろう。逆に弥生時代後期から古墳時代前期の遺物はある。本調査区では遺構が確認できなかったが、東側の箱崎地区区画整理地内の第22次・第26次調査では、古墳などの遺構が調査されており、本地点周辺にも存在する可能性がある。

2．区画溝については、他地点で延長部分が確認できていないが、北側にかけて屋敷地があったことが推定出来る。場所の立地から見て筥崎宮に関連する人々の屋敷であった可能性を考える。周辺の調査に期待したい。出土瓦にも**326**のように筥崎宮に関連する瓦がある。

3．SK226のように、土師器皿や坏が多量に廃棄された土坑は宴を含む儀礼などに使用された食器の廃棄土坑である。館内で宴が行なわれていたのであろう。

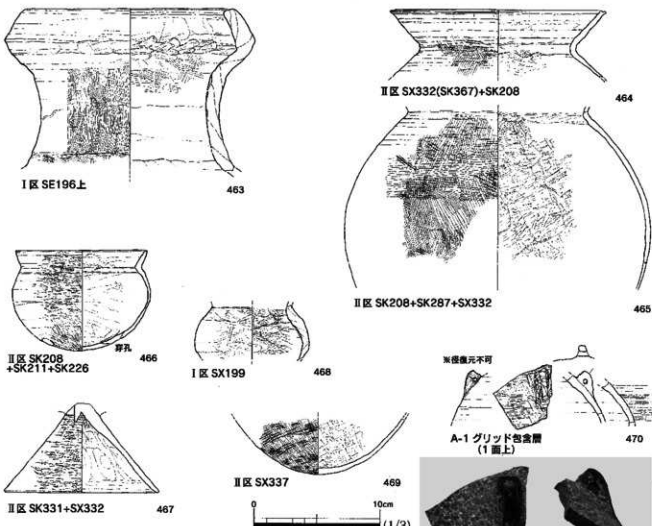


Fig.19　箱崎69次弥生土器、古式土師器、陶質土器

4.各遺構古墳時代以前出土遺物 (Fig.19)

出土遺構は図中に示した。**463**は弥生時代後期前葉～中葉の複合口縁壺。一次・二次口縁部の境界は曖昧な稜。頸部径は後期初頭までより太い。外面は口縁部以外ハケメ、内面ナデ。色調は10YR7/3～7/6。以下は古墳時代前期～中期前半(古墳前期土器の分類と編年は久住猛雄1999)。**464**と**465**は同一個体の布留系甕(**465**の頸部径はさらにしまるか)。口縁部は端面が水平よりやや外傾し、内外に拡張。他は凹凸が非顕著な回転ヨコナデ。外面は頸部ヨコナデ、以下はタテハケ後肩部回転的ヨコハケ、ハケの下に左上りタタキ(7～8条/2cm)。福岡平野に多い形式系統。内面は頸部ナデ、以下平滑なヘラケズリ。胴部器壁は平均して薄い。10YR7/3～7/6。ⅡC期～ⅢA期古相。**466**は小型丸底壺。水濾胎土と外面細密ヨコミガキの「精製器種B群」。内面は板ナデ後ナデ、外面下半ケズリ後細密ミガキ、上半は口縁部まで細密ヨコミガキ。5YR6/6～6/8。口縁部未発達の小型丸底壺10類(ⅡA期)。**467**は精製器種B群庄内系小型器台。脚裾直線的に開く脚部b類(ⅡB期か)。外面細密ヨコミガキ、内面ナデ。5YR7/6～7/8。**468**は頸部がしまる粗製化小型丸底壺。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ後下部ヘラケズリ。7.5YR7/4～10YR6/3。断面一部暗灰色。中期初頭～前葉。**469**はB系統甕B6型式。内面は凹凸あるナデ後ヘラケズリ。丸底底部はやや厚く布留系・庄内系甕ではなく、模倣甕。外面10条/2cmの細筋タタキ(底部周囲は水平、上位は右上)後ハケメ。10YR7/4～7/6。外面煤付着。ⅡB期か。**470**は韓国東南部の陶質土器金官加耶様式両耳付短頸壺片。耳部が小型化し肩部が張るのは金官加耶Ⅳ～Ⅴ段階(申敬澈2000)。耳部整形は角張る。外面板状工具回転ナデ、内面回転ナデ。外面5P3/1＋灰かぶり、内面5PB4/1～5/1。

<参考文献>久住猛雄1999「北部九州における庄内式併行期の土器様相」「庄内式土器研究」X 区、庄内式土器研究会／申敬澈2000「金官加耶土器斗編年―洛東江下流域　前期陶質土器斗 편년―」「伽耶考古学論叢」3、財団法人駕洛国史史蹟開発研究院、韓国

PL.1

(1)調査区から筒崎宮を望む（南東から）

(2)I区第1面全景（東から）

(1)Ⅰ区第２面全景（東から）

(2)Ⅱ区第１面全景（東から）

PL.3

(1)II区第2面全景（東から）

(2)SD05 西壁土層（東から）

(3)SD05② ベルト土層（東から）

(4)SE196（南から）

(5)SE230（北から）

(1)SK14（南から）

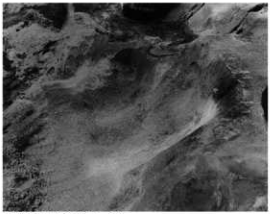
(2)SK15（南から）

(3)SK15 遺物出土状況（南から）

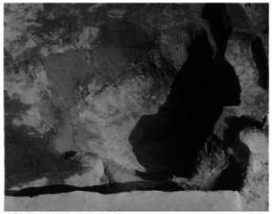
(4)SK20・SP133（東から）

(5)SK113（東から）

(6)SK143（南から）



(7)SK146（南から）



(8)SK218（西から）

PL.5

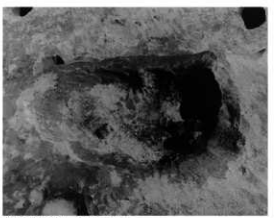
(1)SK222 (西から)

(2)SK226-1・2 (東から)

(3)SK228 (東から)

(4)SK229 (西から)

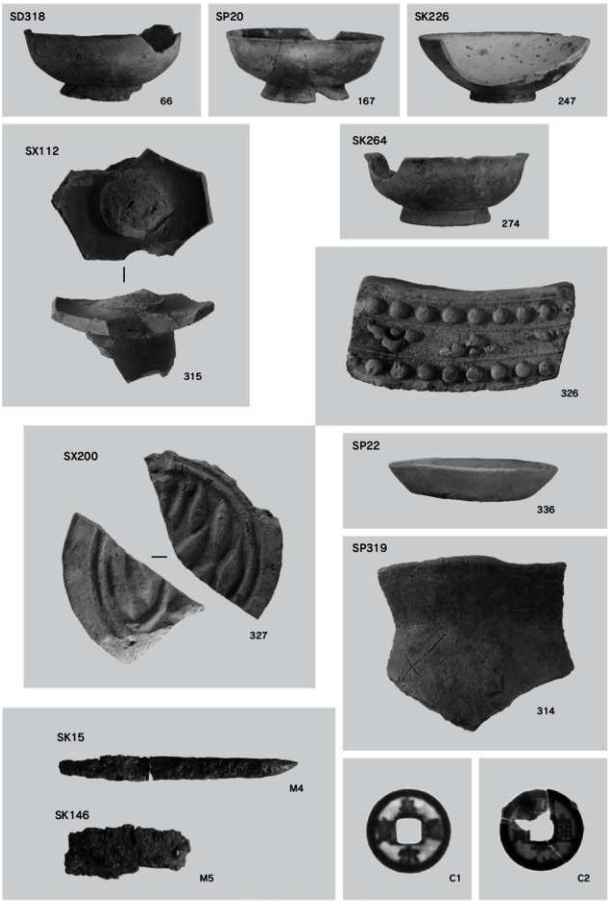
(5)SK303 (南から)



(6)SK314 (西から)

(7)SX322 遺物出土状況 (東から)

(8)SP197 遺物出土状況 (東から)



各遺構出土遺物（縮尺不統一）

報告書抄録

ふりがな	はこざき
書名	箱崎48
副書名	－箱崎遺跡第69次調査報告－
巻次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1271集
編集者名	山崎龍雄
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神１丁目８－１ TEL092-711-4667
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はこざきいせき 箱崎遺跡 だいろくじゅうくじちょうさ 第69次調査	ふくおかしひがしくまいざし 福岡市東区馬出５丁目104 番	40131	2639	33° 36′ 43″	130° 25′ 26″	20130716～0930	170	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
箱崎遺跡 第69次調査	集落	古代末～中世	溝、井戸、土坑、柱穴	土師器、瓦器、黒色土器、瓦、中国産陶磁器、滑石製品、鉄製品	

要約

宮崎宮南側の地点で、遺構は古代末から中世の時期で、２面の調査となった。
上面の第１面は中世前期～後期（12～16 世紀）、下層の第２面は古代末から 12 世紀頃である。
特筆すべき遺構として、直角に曲がる区画溝を検出した。16 世紀頃には埋没しており、場所的に見て宮崎宮の社家の屋敷地の可能性がある。

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1271集

箱崎48

－箱崎遺跡第69次調査報告－

平成27年3月25日

発行　福岡市教育委員会
福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号

発行　株式会社月成印刷
福岡市博多区大井２－13－27